

會 報

第 二 号

— 昭和29年12月6日報 —

北 海 道 土 木 技 術 會

会報 第二号

目 次

I 第二回理事會	1
1 コンクリート腐蝕委員会の構成について	2
2 幹事会の設置について	2
II 第一回幹事會	2
1 幹事会の運営について	2
2 北海道々路橋研究委員会の新設について	2
3 コンクリート腐蝕委員会委員の選任	2
III 第三回理事會	3
1 コンクリート腐蝕委員会委員の選任	3
2 北海道道路橋研究委員会委員の選任	4
3 幹事会の陣容強化について	4
III 室蘭地区会の結成について	4
V 各委員会の活動状況	6
1 道路凍上防止対策研究委員会	6
2 28年度の道路凍上防止対策委員会中間報告	10
3 寒地溼青合材の配合に関する研究委員会	10
4 長期融資対象建設機械の選定に関する調査委員会	10
5 オ一回コンクリート腐蝕委員会	12
6 オ一回北海道道路橋研究委員会	13
7 カニ回北海道道路橋研究委員会	14
VI 新技術紹介講演と映画及び見学会	15
1 講演と映画会	15
2 見学会	15
3 講演概要(イントルーシオン、プリパクト工法について)	15

VII	新入会員の紹介	16
VII	既刊名簿の訂正について	16
VIII	未納会費の納入について	16
X	第四回理事会、幹事会	16
1	理事会、幹事会の経過報告	17
2	望蘭地区会の結成について	17
3	各研究委員会の活動経過報告	17
4	その他	17



I 第二回理事会

8月12日 於札幌開発建設部分室

参会者 (イロハ順)

理事	北大 板倉	北電 岩本	不 勿 建設 小崎	北大 横道
	札幌 高橋	国土木 谷口	大成 永井	岡路局 上戸
	昭道路 卷下	宣 大境		
幹事	札幌 壁垣内	土誠 山本	土誠 小山	北電 阪部
	大林 斉藤	土誠 平岡	北大 菅原	
会員	札幌 永井	土誠 林		

すでに活動している凍上対策委員会と石膏合材委員会及び選総長期融資委員会のその後の研究至遇及び会務の現況など夫々担当幹事より説明の後、決定された主なるものは次のとおりである。

1. コンクリート腐蝕委員会の構成について

提案者 北大 横道 英雄氏より本委員会の研究目的について説明の後、研究委員の選任は、幹事会に一任することになった。

2. 幹事会の設置について

高橋理事の提案により、会活竹が本格化してきた結果からみて、幹事陣を強化し、その盛り上りに期待をかけることとなり、新しく幹事会を設け、今後は一旦幹事会であらかじめ回り、これを理事会に提議することとなった。

Ⅱ 第一回幹事会

9月4日 於札幌南発建設部分室

参会者 (口ハ談)

北大一木	土試林	土試馬場	札幌堂垣内
道土木千葉	北大尾崎	札幌武山	札幌鷹田
土試山本	北大前田	土試小山	大森斉藤
札幌建佐藤	北電阪部	日本舗道柴田(代)	
土試平岡	北大菅原		

この会は前記理事会の意向による幹事会の強化対策として、あらかじめ委嘱された新幹事(別項のとおり)を加えての同一の会合であつた。幹事長伊藤部宗夫氏が病氣欠勤中のため、座長に札幌堂垣内尚弘氏が推され、全氏よりこの会の性格について説明あつた後、次のことが協議され、次回理事会(カ3回)にはかることとなつた。

1 幹事会の運営について

幹事会は会務推進の原動力として活動するため、特に副幹事長と常任幹事を置くことになり、— 副幹事長に札幌堂垣内尚弘氏、又常任幹事には、札幌武山廣志氏、北大菅原照雄氏、土試小山道義氏、土試平岡英明氏、土試山本清助氏の各氏が満場一致で推挙された。

2 北海道道路橋研究委員会の新設について

提案者は北大前田幸雄氏であつて、その設置の趣旨は、貴重な橋梁資料の散逸を防ぎ、橋梁設計施工上に必要な資料を集めて刊行するもので、差向きの研究事項としては(A)北海道々路橋の集覧発行 (B) 設計々算書の発行等が考へられていて、この研究委員、及び助成委員の選定は次回理事会までに定めることとなつた。

3 コンクリート腐蝕委員会委員の選任

前回理事会からの委任によつて次の諸氏が、この会の研究

委員に送られた。

委員長 北大横道英雄 幹事 北大一木保夫 土試林正道
委員 (イロハ順)

北大板倉忠三	前総局市原 薫	土試伊藤洋二
市 伊藤健二	市 磯田 薫	道 千葉静男
北大大森 武	土試鎌野輝雄	前総局神谷外治
札理高橋敏五郎	前総局高橋基次	札理村上忠男
国鉄能勢之次	北電野坂純三	土試久世秀明
清水藤本達男	道 小寺一卓	道 後町徳太郎
北電阪部一郎	大林斎藤 耕	札理北村幸治
北電宮前繁也	北電森田 憲	

Ⅲ 第三回理事会

9月/3日 於札幌開発建設部分室

出席者 (イロハ順)

理事	北大板倉	不動小崎	日本道路 卷下 (代)	北大横道
	札理高橋	土試久世	市 杉内	北大真井
	大林松本	伊藤佐々木		
幹事	北大一木	土試馬場	土試 林	札理望垣内
	道 千葉	前総局村田	工試山本	北大前田
	道 小寺	道 小山	前総局有江	北電阪部

真井副会長が座長となつて、幹事会から提出された次の事項について審議決定された。

1 コンクリート腐蝕委員会委員の送任

前項カ/回幹事会において送られた方々がそのまま承認決定された。

2 北海道道路橋研究委員会委員の選任

委員長 前橋局 有江義晴 副委員長 土試 馬場嘉郎

幹 事 北大 前田幸雄

委 員 (イロハ順) 北大 一木保夫 道土木 千葉静男

前橋局 河野文弘 前橋局 中島猛 札幌 村上忠男

道土木 小山義之 道土木 佐久間純一 土試 平岡英明

特別委員 (特にこの会の研究を助成する捐款役として)

室理 猪瀬幸雄氏 北大 横道英雄氏 札幌 高橋敏五郎氏

前橋局 上戸斌司氏 土試 久世秀明氏 北大 今像三氏

道土木 瀬藤智雄氏

3 幹事会の陣容強化について

幹事会の推せんによつて、副幹事長1名、常任幹事5名、新幹事14名を次のとおり承認決定した。

副幹事長 札幌 望垣内尚弘氏

常任幹事 〃 武山宏志氏 土試 山本清助氏 土試 小山道義氏

土試 平岡英明氏 北大 菅原照雄氏

新任幹事 (イロハ順)

北大 一木保夫氏 土試 馬場嘉郎氏 土試 林正道氏

〃 尾崎 晃氏 〃 岡本北海氏 札幌 武山宏志氏

札幌 鷹田吉憲氏 札幌 長江典彦氏 北大 前田幸雄氏

土試 古谷浩三氏 札幌 小寺一卓氏 札幌 佐藤幸男氏

〃 佐々木敏雄氏 土試 宮川 勇氏

Ⅲ 室蘭地区会の結成について

室蘭地区は各地に先んじ会員数も相当充実した折柄、カミ同理事会の意向として、会規の趣意に基き地区会の結成をすゝめることになり、去る10月6日付書面をもつて次の諸氏に対し

の旨を伝えに上相談した。

(イロハ順) 室蘭工業大学 井口 寛家 氏、 室蘭商港建設部 猪瀬 翠雄 氏
 室蘭工業大学 太田 誠一郎 氏、 室蘭市水道部 鷹田 正人 氏
 室蘭工業大学 境 隆雄 氏、 佐伯利 吉 氏
 室蘭市役所 宮前 喜藏 氏、 富士製鉄 本内 静夫 氏

その後、全地諸賢の熱意あるばかりにより、11月26日
 室蘭商港建設部において設立準備会を開くこととなり、在任役
 員として連絡のため、板倉理事と山本幹事がこれに出席して打
 合せを行った。この準備会の状況は次のとおりであった。

i) 出席者 (イロハ順)

室蘭工業大学 …… 井口 寛家 氏、 佐伯利 吉 氏、 境 隆雄 氏
 室蘭商港建設部 …… 猪瀬 翠雄 氏、 白石 直文 氏、
 * 土木現業所 …… 尾藏 三郎 氏、
 * 市役所 …… 鷹田 正人 氏、 宮前 喜藏 氏、 吉田 節 氏
 富士製鉄 …… 本内 静夫 氏、 大柿 謙 氏、
 在任役員 …… 板倉 忠三 氏、 山本 清助 氏

ii) 協議概要、その他

発起人側を代表して、境理事より設立準備の経過、板
 倉理事より、土木技術会の性格と現在の活動状況につい
 て片々説明の後、発起人側においてあらかじめ用意され
 た地区会々則(案)を中心として種々協議検討された。

その結果、研究活動と地区内会員の相互連絡に重点を
 おいて新発足することに意見の一致をみ、12月4日の
 理事会で承認され、いよいよ来る12月18日に設立総
 会を開くことになった。

そのほか、特に話題にのぼったものとしては、全地区
 会の今後の活動として、クロボク地帯土砂安定処理工法
 さらばん道路対策、市町村に対する技術援助等も取挙げ
 ることについて、種々積極的意見が出された。

V 各委員会の活働状況

1. 道路乗上防止対策研究委員会（伊福部幹奉報）

この委員会は8月24日、9月10日、10月29日の3回にわたり土木試験所内講堂において開催されたが、その出席委員及び関係出席者は次のとおりであつた。（順不同）

1/1回委員会

北大……真井、板倉、東、南発局……高橋、久世、上戸
宮川、武山、小山、古山、道……瀬藤、札幌市……柳内
日本道路……巻下（代） 日本舗道……土屋

1/2回委員会

北大……真井、板倉、東、南発局……上戸、久世、武山
宮川、小山、古山、道……高木、千葉、小山、入江、小
寺、坂田 札幌市……柳内、紙谷、勝田
日本道路……土屋

1/3回委員会

北大……真井、板倉、南発局……久世、伊福部、武山、小
山、古山、柳内、瀬藤、坂田、櫻林、青藤、矢部、長谷川、金井
山崎、仁平 道……高木、入江、南井 札幌市……紙谷、
勝田 日本道路……巻下 日本舗道……土屋

以上の各委員会を通じ、討議決定された主なる事項とその要旨は次のとおりである。

i) 既往の調査資料の取まとめについて

小委員会を設けてこれをまとめることとなり、その委員として次の各氏が選ばれ、9月20日土木試験所でその1/1回小委員会が開催された。

（順不同） 北大板倉、北大東、土試宮川、札幌武山、
南発局神谷、南発局千葉、市紙谷

ii) 乗上対策工標準示方書の作成について

札幌市に於ては当時、高橋敏五郎氏の提案に分れる

もので、以来懸案となつていたが、既在の調査資料をとりまとめた結果と、今後の調査結果をまつて小委員会を設けて作成することとなつた。

III) 本年度の研究課題について

本年度は専ら次の項目を課題として 夫々の担当によつて研究をおしすゝめることになつた。

- ① 遮水工法の試験工率 (担当) 札幌開発建設部
- ② 札幌市内道路上凍の調査 " 札幌市 建設部
- ③ 砂利道の凍上対策 " 道 土 木 部
- ④ 既往舗装道の凍上被害の調査と処置 " 札幌開発建設部
- ⑤ 凍上対策置換材料に使用する切り砂利の品質 " 土木試験所

なお、板倉委員の提案による $CaCl_2$ の凍上防止効果に及ぼす使用量、施工法等の砂利道を対象とする試験は一応取止め、資料のみを蒐集することとなつた。

III) 前項研究課題に対する要綱概要

① 遮水工法の試験工率について

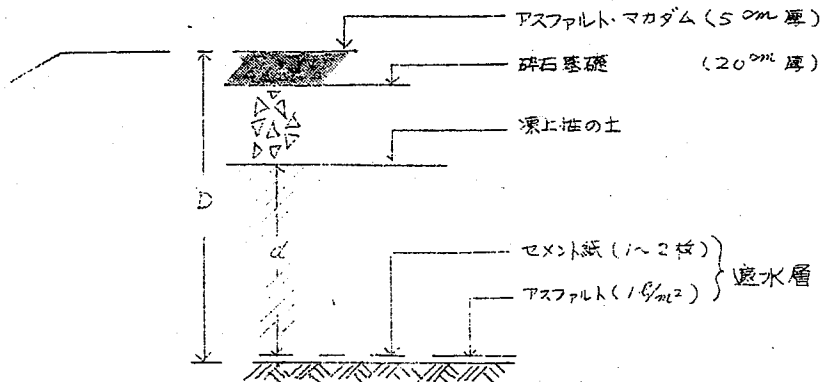
この試験工率は国道カ/2号線釣橋附近で縦断的に片勾配 \square 所に位置を固定し延長20m区間をコンクリートブロックで障し、この間を分割して凍上性の3種の土(地方産材料)について実施することとなつた。その施工標準は下図の如きものであるが、図において取付道路の関係から $D \approx 80\text{cm}$ にする必要があり、従つて $cl \approx 40 \sim 50\text{cm}$ となる。

この試験工率の目的からみて

- i) 圧入路床は非凍上性でなければならぬこと。
- ii) 封緘された凍上性の土が厚さによつてどんな変化を示すかを試験するものであるから cl は厚い方がよい、このため1試験区間を20mとし一種の土につ

いて厚さを表えて2〜3ヶ所実施することがのぞましいこと。

- iii) 遮水層そのものの試験ではないのでこの場合の遮水は完全なものとする事等が要望された。



この試験工事は9月中旬着工、10月下旬表層を施工したが施工時期と現場条件から路盤が安定せず、その実状把握と対策を協議するため10月26日現地視察を行った。

なお、この試験工事は概算されたとおり延長20m区間を分割し、釣橋赤土(ローム)、野幌官林火土盛の土(砂質ローム)、養農学校正門前黒土(ローム)の3種類の上を使用したものである。

② 札幌市内道路土質調査について

土木試験所において9月14日(札幌市、北大、土試)及び10月4日(札幌市、土試)の2回に亘り土質調査対象路線と方法について協議した結果、 β 観測による凍上調査とレベルによる路面凍上量測定との2項目が追加された。

- i) 土質調査；昭和30年度舗装計画の次の5路線について10月11日より土質調査を開始し、試料採取

を終わって目下土質試験中である。バスセンター、面
7, 9, 11丁目線、北8条

- iii) 凍上調査；10月5, 6, 7日バスセンター、面7
丁目、及び9丁目線の3ヶ所に凍上観測のための
P₁を設置し11月16, 17日カ/回観測を終つ
た。なお面3丁目線、北1条～2条間において路
面凍上量を測定する予定である。

又土試担当札幌市の協力を得て北12条8丁目におい
て凍上板及び新らしく試作した凍上量測定装置による
凍上量測定並びに地温測定を行うこと、なり11月
17日現地を調査し同月18日その設置を終つた。

⑤ 砂利道の凍上対策について

融凍期における砂利道の被害程度は交通量の多寡によ
る砂利道の表層の厚さとこの被害程度の関連を明ら
かにし、砂利道の凍上対策維持の指針をうると云うの
がこの調査目的である。

カ2回委員会において道々札幌夕張線（釣橋～広島
向）を対象路線とすることが決定され11月1日現地
調査を行った結果面ノ里（2ヶ処）、共栄（4ヶ処）
の2地点について近接観測、凍上量測定、凍上最盛期
における凍上調査及び融凍期における交通量と凍上状況と調査することになった。

④ 既設舗道の凍上被害調査並びに処置について

国道5号線（追分） 同36号線（柏木）における凍
上原因を探求し対策を講ずることになっている。

⑤ 凍上対策的置換材料として使用する切込砂利の品質に
ついて

凍上対策的置換材料として使用する切込砂利の品質に
関しては砂（粒径5^{mm}）以下の全重量に対するシルト
（粒径0.075^{mm}）以下の含有%を以てその凍上性を
判定する一標準としている。

本実験はこの限界値を確かめようとするもので土木試験所講内において行う。

2 28年度の道路凍上防止対策研究委員会中間報告(Ⅱ)
土木試験所関係分(河瀬資料部)がこの程まとまつたのでこの会報と共に各会員のお手元にお届けする。

3 雪地遷青台杖の配合に関する研究委員会
かねて製作中であつた「雪損判別試験機」(ラベリング)が完成し、目下南苑局土木試験所で試運転中であるが近くこれを戸外に移して本格的実験にとりかゝることゝなつた。この試験杖の製作は兼屋鉄工所であるが、完成に至るまで全所において、8月30日及び9月9日の兩日、北大板倉忠三氏をはじめ、巻下、土屋、菅原、小山、紙谷、古山の各研究委員によつて全杖製作上綿密な検討がなされた。なお今後の試験方針等については近日中に具体化する運びとなつてゐる。

4 長期融資金対象建設杖械送定に関する調査委員会

i) カノ回調査打合せ会

この調査は既報のとおり、社団法人、日本建設杖械化協会道支部と役同のもとに行ふことゝなり、去る8月20日そのカノ回打合せ会を開き次の諸事項を決定した。

なお、当日の出席者は次のとおりであつた。

会長 斉藤 稔 脩 (以下イロハ順) 大三重杖 豊島 永治、
南苑局 金泉 徳雄、南苑局 米納 津一郎、道土木 高木 陽一、
札幌杖整 長江 英彦、土 試 山本 清助、大三重杖 遠藤 良雄
小松製作所 関 晃

ii) 役員送定

この会の特殊性から、主査1名、幹事2名をおくことゝなり、次の方々が送任された。

主査 札幌杖械整備事務所 長江 英彦氏

幹事 小松製作所 関 晃 氏、土木試験所 山本 清助

iii) 調査の分担

- ① 庁発局及び道保有機械の現況調査
 庁発局金泉徳雄氏 道土木部高木陽一氏
- ② 道内土建業者所有の建設機械類の調査
 土建協会谷 弘氏
- ③ 道内建設工事に必要とする機械類とその価格調査
 庁発局米術定一郎氏 道土木部高木陽一氏
- ④ 長期融資対象機械の限度調査
 未定（全般的調査終了後の総括調査）
- ⑤ 建設機械修理に関する調査
 小形製作所関 晃氏
- ⑥ 原価償却に関する調査
 北日本建設遠藤良雄氏
- ⑦ 建設機械貸借料金に関する調査
 北日本建設遠藤良雄氏

iv) 調査の現況について 長江主査報告

前項の調査項目の基本的調査現況は次のとおりである。

- ① 道内建設機械現況調査
 道、庁発局、鉄道管理局、工事事務所、営林局、等の官庁関係全部と建設業取組の社余の報告を受け、これを基として機械別に細分集計中である。
- ② 機械の価格及び製作販売会社の調査
 機械種別毎にその製作会社と規格を基としてこれに対する北海道渡しの価格、商會会社、製作者、関係者等に亘りほぼ調査が完了したが、広範にわたるこれらの調査資料は尠大なものとなった。
- ③ 修理関係の調査
 機械の修理上建設機械を取扱うことのできる工場の業務内容、規模、部岳補給の状況を細部に亘る調査を終へ、更に、一部建設機械を扱えるもの、自動車類修理専門のもの、建設機械のみ扱うもの、等に区別するは

か、各地区別に整理しほとんど取まとめが済んだ。

④ 賃貸料関係の調査

賃貸料については、官方関係及び本州所在の会社のものを集めてその内容の比較検討を終へ、目下道内関係の調査を行つている。

⑤ 建設業者の機械施行に関する調査

建設業者の機械使用の場合の收支及び能率等について細部に亘り目下調査中である。

5 第一回コンクリート腐蝕委員会

9月21日 於土木試験所講堂

出席委員

委員長 横道(北大) 幹事 一木(北大) 林(土試)

委員(いろは順) 北大板倉、土試伊藤、市磯田、

国発局高橋、国鉄能勢、清水藤本、北電酒井(代理)

横道委員長よりこの委員会の設立趣旨について説明の後次の諸事項が採議決定された。

- i) 被害状況調査表案について検討し、一定様式の調査表によつて関係方面に調査を依頼すること、但しメ切は第一次10月末、第2次12月末とする。
- ii) 物理化学関係の研究事項は主として北大と土木試験所で、又腐蝕防止対策及び補修工法については主として北大、土木試験所、国鉄、北電、業者で夫々担当すること。
- iii) 研究内容を4つの小委員会に分け、夫々の世話人は次のとおりとすること。

第1小委員会(調査関係) 谷内、野坂、能勢、

第2小委員会(化学関係) 大藏、

第3小委員会(補修工法関係) 横道、板倉、久世、
能勢、阪部、藤本、佐伯

第4小委員会(文献関係) 一木、林、菅原、藤本

なお、能勢委員より国鉄で目下実施中の凍害実験について簡単な紹介があつた。

iv) コンクリート構造物腐蝕被害状況調査の依頼先

本委員会の決定によるこの調査は、9月24日付会長名による文書をもつて次の各所に依頼した。

- 国 道局 ----- 建設部長、港湾部長、農水部長
- 道 ----- 土木部長、商拓部長、
- 北 電 ----- 土木部長、
- 国 鉄 ----- 施設部長、工争々務所長
- 札幌市 ----- 建設部長、水道部長
- 小樽市 ----- 水道部長、港湾部長
- 函館市 ----- 水道局長、建設部長、港湾部長
- 室蘭市 ----- 工管部長、水道部長、港湾事務所長

6 第一回北海道道路橋研究委員会

9月20日 於土木試験所研修室

出席委員

委員長有江義晴 副委員長馬場嘉郎 幹事前田幸雄

委員 河野文弘、千葉静男(代)、丸子正美、平岡英明、

この委員会で協議決定された主なるものは次のとおりである。

i) 調査研究方針について

- ① 本委員会の基本方針として「道路橋集覧」の刊行を第一に取挙げこの資料を急いでまとめることに全力を注ぎ、次にその資料の整理、第三に印刷配慮の段階に分けて推進すること。
- ② 最初の調査事項として、道、国道局、市町村関係の昭和25年度以降の橋名、その型、巾員、全長などを網羅して予備資料の集成をすること。
- ③ この委員会は、毎月第一水曜日午後2時から土木試験所で、常例的に開催すること。
- ④ 業界からの研究委員の選出は、各橋梁製作会社の調査検

討を終えてからとし、当分これを保留にすること。

7. 第二回北海道道路橋研究委員会

10月6日(水) 於土木試験所研修室

出席委員

委員長 有江義晴、副委員長 馬場嘉郎、幹事 前田幸雄

委員 河野文弘、千葉静男、小山義之

当日決定された事項は次のとおりである。

- i) 集録する橋の種類及び型式は、鋼橋を11、コンクリート橋を7型式に分けること。
- ii) 委員の集めた基礎資料は、道内係51橋、関係局内係50橋、その他7橋、合計108橋であり全部を通じて100橋の資料集成を目標とすること。
- iii) 道及び関係局に対する建設省からの橋梁調査内容を参考としその鋼橋、コンクリート橋の上部及び下部別に検討を加えて本委員会の調査項目とすること。
- iv) 次回までの各委員の分担調査を次のとおりとする。
 - ① 関係局及び道所属委員は今回決定した諸型式別に各橋梁を分類して、調査対象の橋梁一覽表を作成すること。
 - ② 前田委員は、調査内容及び項目を整理し、目面とする内容及び原図の寸法などをさめること。
 - ③ 馬場委員は、モデルケースとして任意の1橋について、調査資料の内容、項目の記入及び図面の作成をすること。

(以上前田幹事報)

VI 新技術紹介講演と映画及び見学会

1. 講演と映画 … (9月17日 午後2～5時 於札幌市労働会館)

演題 …… インترلージョンスレパクト工法について

講師 西松三好氏 (西松建設社長)

斉藤会長の同催趣旨、板倉理事の紹介あつて、最近欧米視察から歸られた西松講師により各種資料を引照の上この工法に対する実証的講演発表がなされた。その懇切な解説は満堂の聴講者を熱心に傾聴させ、質疑応答の後、記録映画「鴨緑江水力発電工争」等を上映し好評裡に終了した。

この日聴講者は110名余であつて会場は立錫の余地なき盛會であつた。

2. 講演概要 (研究資料 No.2) 別冊のとおり会員にお届け致します。

3. 見学会 …… (9月18日)

場所 …… 北電藻岩発電所取入口補修工争現場

(延鉄東ニスマイ 駅下車)

この現場は北電における凍害防止コンクリート試験工争であつてこれを物理的氣象的に究明するものである。

そのため特に北大工学部板倉教授及びコンクリート教室、北電並びに西松建設技術研究部 (部長堀武氏) の尽力によつてスレパクト工法を取入れ施工中のものである。この日、秋晴れの現場に参集した見学者は60有余名であつて、工争担当者による工争経過等現場の實際について説明を受け、施工上詳細に亘つて終日熱心な実地研究が行われた。

Ⅶ 新入会員の紹介

その後新しく入会された会員は別冊「新入会員名簿」（役員名簿）合冊のとおりである。従つて11月末日現在会員総数は339名で内賛助会員32団体となりました。

Ⅷ 既刊名簿の訂正について

既刊の役員名簿中幹事の手違いにより次の御氏名を渡しましたので、御追記の上訂正願います。………本会事務局

理事 三島 勇 札幌市北三条西七丁目 岡谷局建設部河川課
なお、新しく幹事が選任されたので役員名簿（新入会員名簿合冊）を別冊のとおり改刷しました。

Ⅷ 未納会費の納入について

本年度分の会費未納の方に対して別紙振替用紙を封入しました。お忘れなく納入の程会報を通じて特にお願ひします。

X 第四回理事会，幹事会

本年掉尾の理事会、幹事会が12月4日午後2時から、土本試験所において開催された。

出席者（いろは順）

- 理事 高橋敏五郎氏 永井 賢氏 久野義夫氏(代 山田昌氏)
 巻下乙四郎氏 松本 唯氏(代高橋氏) 境 隆雄氏
 幹事長 伊福部宗夫氏
 幹事 林 正道氏、山本清助氏、前田幸雄氏、小山道義氏
 小寺一草氏、斎藤鼎氏(代高橋氏)、阪部一郎氏
 柴田文之助氏、平岡英明氏、菅原照雄氏

先づ、高橋理事から挨拶があり、次いで次項に示すような議事に入った。

- 1 伊福部幹事長から現在までの理事会、幹事会について(別項所載のとおり)経過報告がなされた。
- 2 室蘭地区会の結成についての審議に入り、地区会の根本理念について、忌憚のない意見が交わされた後、満場一致採擇された。従つて同地区会は予定のとおり本月18日室蘭において発会式がとり行われることとなつた。
- 3 各研究委員会の現在までの活動状況について、下記の如く担当者から夫々説明があつた。
 - i) 道路凍上防止対策研究委員会 伊福部幹事
 - ii) 巻地瀝青台材の配合に関する研究委員会 菅原幹事
 - iii) 長期融資対象建設機械鑑定調査委員会 山本幹事
 - iv) コンクリート腐蝕研究委員会 林幹事
 - v) 北海道々路橋研究委員会 前田幹事

4 その他

今後の各研究委員会の活動に対する意見、その活動に要する経費の予算措置、会費の徴収方法、会の運営に対する各理事の希望等活発な意見交換が行われた。更らに本会理事巻下乙四郎氏が近々道路状況視察のためアメリカに派遣されることになつたので、本会として祝意を表すると共に、アメリカの道路について特に観察してほしい点を要望し、その成果をあげて期待することとなつた。

なお、本役員会の労をねぎらうため特に斎藤会長からビー...

~18~

の御奇蹟があり和気あいあいの中に、本年悼尾にふさわしい
気分をもつて散会した。

(文藝 事務局)